

『専門医がやさしく語る はじめての精神医学』改訂第2版
増刷時修正履歴(2020.3.31 現在)

■第3刷(2017年4月)で修正

●207 ページ 表 38 「非定型抗精神病薬」の欄

「クロザピン クロザリル 治療抵抗性・・・」の下に下記を挿入

(一般名)「アセナピン」 (商品名)「シクレスト」

●213 ページ 表 40 「SNRI」の欄

「デュロキセチン サインバルタ」の右に下記を挿入

「さまざまな疼痛にも有効」

「デュロキセチン サインバルタ」の下に下記を挿入

(一般名)「ベンラファキシン」 (商品名)「イフェクサー」

●217 ページ 「睡眠薬」の14行目

メラトニン受容体刺激薬(ラメルテオン)は新しい作用機序の睡眠薬です。

→メラトニン受容体刺激薬(ラメルテオン)とオレキシン受容体拮抗薬(スボレキサント)はそれぞれ新しい作用機序の睡眠薬で副作用は少ない薬です。

●218 ページ 表 42 「メラトニン受容体刺激薬」の欄の下に下記の「オレキシン受容体拮抗薬」の欄を追加

オレキシン受容体拮抗薬

(一般名)「スボレキサント」 (商品名)「ベルソムラ」

●278 ページ 著者略歴 最終行に下記を追記

「2017年 横浜創英大学特任教授」

■第4刷(2020年2月)で修正

●24 ページ 1 番下に以下の文章を追加

2019年にICD-11がWHOで正式に承認されましたが、2019年12月の時点ではまだ和訳が出版されていません。したがって本書ではICDに関する箇所はICD-10分類に従って記載しています。

●52 ページ上から5行目

美智子皇后→美智子 **上皇后**

●55 ページ「適応障害」の3節目の文章を以下に変更

雅子皇后が皇太子妃時代に適応障害と診断されてからこの病名が有名になりました。やはり、さまざまなストレスが原因となったであろうことが推察されます。

●109 ページ「通電療法」の項目に以下の文章を追加

近年、うつ病に反復経頭蓋磁気刺激法が行われるようになっていきます。これは脳に外部から磁気刺激を行う治療法のことです。電気けいれん療法を適用するほど重症ではないが、薬物療法に抵抗性を示すうつ病に対して有効であると報告されています。

●156 ページ下から2行目と3行目の間に以下の文章を挿入

前述したように、従来、アルコール依存の治療については、完全に飲酒を止める断酒が必要とされてきました。しかし、近年、明らかな合併症のない患者には、飲酒量低減(節酒)治療を行ってもよいとする考えも生じています。その際にはナルメフェン(商品名セリンクロ)という飲酒量低減薬が使用されます。

●161 ページ「ギャンブル障害」についての記載の下に以下の文章を追加

近年インターネット・オンラインゲームの依存が問題となっていることを背景に、ICD-11(2019年公表)ではゲーム障害 gaming disorder も病名として記載されています。

●165 ページ「てんかん発作重積」の項目の「ジアゼパムというベンゾジアゼピン系薬剤の静脈注射を行います。」に続けて以下の文章を追加

最近、ミダゾラムやロラゼパムの注射も行われるようになりました。

●166 ページ「治療, 対応」の項目の「抗てんかん薬の服用が治療の基本です。」に続けて以下の文章を追加

最近, 難治性てんかんに, 迷走神経刺激療法が行われるようになりました。

●177 ページのメチルフェニデートとアトモキセチンについての記載の後に以下の文章を追加

さらに最近, グアンファシン(選択的 α_{2A} アドレナリン受容体作動薬で商品名インチュニブ)も使用されるようになりました。

●207 ページ 表 38 に以下の赤字を追加

非定型抗精神病薬

オランザピン ジプレキサ 注射薬あり, 気分安定薬の作用あり

双極性障害の躁状態およびうつ状態も適応

抗がん剤の副作用の吐き気にも適応

クエチアピン セロクエル

ビプレッソ徐放錠 双極性障害のうつ状態も適応

ペロスピロン

ブロナンセリン

アリピプラゾール エビリファイ 液剤あり, 気分安定薬の作用あり

双極性障害の躁状態も適応

うつ病に他の抗うつ薬と併用して使用

自閉スペクトラム症の易刺激性も適応

パリペリドン

クロザピン

プレクスピラゾール レキサルテイ

アセナピン シクレスト

デポ剤

アリピプラゾール エビリファイ 4週間に1回注射

●211 ページ「黒質線条体系」の1行目

線状体→**線条体**

●213 ページ 表 40 に以下の赤字を追加

SSRI

エスシタロプラム レクサプロ 社交不安症も適応

SNRI

デュロキセチン サインバルタ 各種疼痛も適応

ベンラファキシン イフェクサーSR

NaSSA の下に追加

セロトニン再取り込み阻害・セロトニン受容体調節薬

ボルチオキセチン トリンテリックス

●215 ページ上から 6~7 行目の文章を以下に変更

近年、元来は副作用の少ない統合失調症の治療薬として開発された非定型抗精神病薬（オランザピン、クエチアピン、アリピプラゾール）が双極性障害への治療効果もあることが明らかになってきました。これらも気分安定薬であるとする考えも出てきています。

●216 ページ表 41 に以下の赤字を追加

ロラゼパム

ワイパックス

ロラピタ

注射薬

てんかん重積発作に使用

●217 ページ「メラトニン受容体刺激薬（ラメルテオン）」についての記述を以下に変更

メラトニン受容体刺激薬（ラメルテオン）とオレキシン受容体拮抗薬（スボレキサント）は新しい作用機序の睡眠薬でベンゾジアゼピンよりも副作用は少ない薬です。

●218 ページ表 42 「メラトニン受容体刺激薬 ラメルテオン」の下に新項目として以下を

追加

オレキシン受容体拮抗薬

スボレキサント

ベルソムラ

●219 ページ表 43 に以下の赤字を追加

ジアゼパム

セルシン

注射薬あり

重積発作に使用

ミダゾラム

ミダフレッサ

注射薬

重積発作に使用

ロラゼパム

ロラピタ

注射薬

重積発作に使用

●251 ページ下から 3～6 行目の文章を以下に変更

に課せられた義務のことです。現在は身体障害者、知的障害者および精神障害者は必ず雇用することが義務化されています。

●278 ページ 略歴を変更

渡辺雅幸 わたなべまさゆき

1948 年生まれ

1972 年 慶應義塾大学医学部卒業

同医学部精神神経科入局

1979 年 医学博士学位取得

1982-1985 年 カナダ・トロント大学医学部薬理学教室博士研究員

1986 年 防衛医科大学校精神科講師

1992 年 米国・デュポンメルク 中枢神経系疾患研究部門客員研究員（1 年間）

1995 年 東京都精神医学総合研究所精神薬理研究部門室長

1999 年 昭和大学附属烏山病院副院長・精神科助教授

2002-2013 年 昭和大学保健医療学部教授（精神医学）

2013-2017 年 東京医療学院大学教授（精神医学，神経内科学）

2015-2019 年 大正大学客員教授

2016-2019 年 横浜創英大学特任教授